

コロナ問題検証委員会

第2回 障害児教育における新型コロナウイルス関連問題検討会

主催：全国障害者問題研究会鳥取支部

共催：鳥取大学地域学部三木研究室、鳥取短期大学幼児教育保育学科國本研究室

①日程

2020年7月5日(日)14:00~16:00

会場 鳥取大学地域学部5階 5160講義室



②目的

昨年末に発生した新型コロナウイルスはパンデミックを起こしました。我が国においても2月末の首相会見において学校への休校要請が出され、3月から全国で休校措置がとられる事態となりました。その影響は療育現場、教育現場、福祉現場など大きく社会全体に及んでいます。また、災害時の避難をどうするのかといった新たな課題も出始めています。現在は感染の波が落ち着き、緊急事態宣言が解除されたものの、専門家からは感染の第2波・第3波到来の危険性が叫ばれています。

そのような状況の中、感染者数が少なく落ち着いているように見られる鳥取県においても、休校中の家庭でパニックを起こす生徒の事例や、希望していた就労が困難になる事例などの話を聞きます。特に障害児者が困難な状況に陥っているのではないかと危惧されます。

そのような中、2020年6月14日(日)に行った第1回の検討会では、感染が拡大した都市部の状況を語っていただきました。その内容からは、①改めて学校教育の意義を確認する必要があること、②長期の休校が与えた影響の大きさを訴える必要があること、③感染者へのバッシング問題への検討が必要であること、といった論点が考えられました。同時に、公立の特別支援学校や肢体不自由の特別支援学校における影響を調べる必要があるのではないかとという課題も見えてきました。

そこで、鳥取支部ではzoomを用いたインタビュー調査の第2回目として肢体不自由特別支援学校勤務の先生にご協力いただき、今回の事態の課題の検証をさらに深めようと考えました。

③方法・内容

<調査全体を通して>

- ・他都道府県の関係者に協力を依頼し、zoomを活用したインタビューを行う。
- ・障害児教育分野に注目して実施する。
- ・企画、運営を全障研鳥取支部が行う。

<第2回インタビューについて>

- ・公立の肢体不自由特別支援学校に着目して検証する。
- ・協力者は古澤直子さん(東京)、木澤愛子さん(滋賀)の2人。
- ・前回ご協力いただいた3人の方と、障害児教育学の立場から越野和之さん(奈良教育大学)にも引き続きzoom参加を依頼。

④その他

- ・本調査に当たって、zoomによるインタビュー調査の様子を録画します。
- ・調査を進める上で、当日の発言内容を文字起こしした資料にする場合もあります。
- ・調査結果を公開する場合は、個人・学校名等の公開について、ご本人と相談のうえ決定します。

*これは、文部科学省学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)(一般))「知的障害、発達障害の教育目標・教育評価に関する研究—資質・能力論の観点から」の一環として行われます。